

SYLLABUS
シ ラ バ ス
令和8年度後期

視能訓練士科 2年次

医療法人社団 慈恵会
神戸総合医療専門学校

視能訓練士科 教育課程（令和8年度後期）

2年次

科目名	単位数	時間数	年次	時期	科目名	単位数	時間数	年次	時期
生物学	2	30	1	前期	視能矯正学演習Ⅱ	1	30	2	前期
情報科学	1	15	1	前期	視能矯正学演習Ⅲ	1	30	2	前期
医用英語	2	30	1	前期	視能矯正学演習Ⅳ	1	30	2	後期
心理学	2	30	1	前期	視能障害学Ⅰ	1	30	1	後期
人間関係論	2	30	1	前期	視能障害学Ⅱ	1	30	2	前期
生命倫理学	1	15	2	後期	視能障害学Ⅲ	1	30	3	後期
キャリア教育Ⅰ	1	15	2	前期	神経眼科Ⅰ	1	30	2	前期
キャリア教育Ⅱ	1	15	2	後期	神経眼科Ⅱ	1	30	2	後期
保健体育Ⅰ	1	30	1	前期	眼薬理学	1	30	2	前期
保健体育Ⅱ	1	30	1	後期	視能訓練学Ⅰ（斜視）	1	30	1	後期
基礎医学Ⅰ	2	30	1	前期	視能訓練学Ⅱ（弱視）	1	30	2	前期
基礎医学Ⅱ	2	30	1	後期	視能訓練学各論Ⅰ	1	30	2	後期
人間発達学	2	30	1	後期	視能訓練学各論Ⅱ	1	30	2	後期
保育学	2	30	1	前期	視能訓練学Ⅰ演習	1	30	2	後期
臨床医学Ⅰ	1	15	2	後期	視能訓練学Ⅱ演習	1	30	2	後期
臨床医学Ⅱ	1	15	2	後期	視覚リハビリテーション（理論）	1	15	2	前期
臨床心理学	2	30	2	前期	視覚リハビリテーション（実践）	1	30	2	前期
精神衛生学	2	30	2	後期	視能訓練学特論Ⅰ	1	30	3	前期
医療統計学	1	15	2	前期	視能訓練学特論Ⅱ	1	30	3	後期
視能学概論	1	15	1	前期	臨地実習Ⅰ	1	45	1	後期
医療安全管理論	1	15	2	後期	臨地実習Ⅱ	1	45	2	後期
視器の解剖生理Ⅰ	2	30	1	前期	臨地実習Ⅲ	14	630	3	前期
視器の解剖生理Ⅱ	2	30	1	前期	視能学特論Ⅰ	1	30	1	前期
視覚情報処理学	2	30	1	後期	視能学特論Ⅱ	1	30	2	前期
視能検査学総論	2	30	1	前期	総合視能訓練学演習Ⅰ	1	30	1	後期
社会福祉学	2	30	1	後期	総合視能訓練学演習Ⅱ	1	30	2	後期
公衆衛生学	2	30	2	前期	総合視能訓練学演習Ⅲ	1	30	3	前期
専門職連携論	1	15	2	後期	総合視能訓練学	3	90	3	後期
保健医療と福祉	1	15	2	後期					
特別支援教育概論	1	15	2	後期					
基礎視能矯正学Ⅰ	1	30	1	前期					
基礎視能矯正学Ⅱ	1	30	1	後期					
基礎視能矯正学Ⅲ	1	30	2	前期					
幾何光学	1	30	1	前期					
生理光学Ⅰ	1	30	1	前期					
生理光学Ⅱ	1	30	1	後期					
生理光学Ⅲ	1	30	2	前期					
視覚生理学Ⅰ	1	30	1	後期					
視覚生理学Ⅱ	1	30	1	後期					
視覚生理学Ⅲ	1	30	2	前期					
基礎視能矯正学特論Ⅰ	1	30	3	前期					
基礎視能矯正学特論Ⅱ	1	30	3	後期					
生理光学Ⅰ演習	1	30	1	前期					
生理光学Ⅱ演習	1	30	1	後期					
生理光学Ⅲ演習	1	30	2	前期					
視能検査学Ⅰ	1	30	1	後期					
視能検査学Ⅱ	1	30	2	前期					
視能検査学総合演習	1	30	2	後期					
眼科画像解析学	1	30	2	後期					
視能矯正学演習Ⅰ	1	30	1	後期					

科目名		授業形態	担当教員名	
生命倫理学		講義	中田 勝也	
時間数（単位数）		授業回数	年次	開講時期
15 時間 （ 1 単位）		8 回	2 年次	後期
授業の目的・概要				
本講義では、生命倫理にまつわる諸問題を具体例に取りながらも、単なる知識の伝達・習得ではなく、各人が、様々な人生の局面の各瞬間に現実的に問われるであろう倫理観について考察する。またそれは、ひとりよがりの価値観ではなく、自分と他者の間においてこそ問われるものであるということを、できるかぎり他者の意見を問うという仕方で確認していく。				
授業の到達目標				
医療に携わる者として人間の尊厳を守るために、生命について考えることができる。				
授業計画				
回	内容			
1	倫理とは何か			
2	健康とは何か			
3	生殖技術について			
4	人工妊娠中絶について			
5	差別と優生思想について			
6	臓器移植について			
7	安楽死について			
8	ターミナルケアについて			
成績の評価方法と基準				
種別	割合	評価基準・その他備考		
定期試験				
レポート・課題	90%	知識の多寡ではなく、自らの問題として生命について考察しえているか。評価基準は別途示す。		
小テスト				
その他	10%	授業中の発表内容（理解度・批判性）、授業態度。評価基準は別途示す。		
自由記載				
教科書				
書名		著者・編集者名	出版社名	
生命倫理学入門 第5版		今井道夫 著	産業図書	
自由記載				
参考文献				
書名		著者・編集者名	出版社名	
適宜、雑誌記事、新聞記事などを活用する。				
自由記載				
備考				

令和8年度シラバス

視能訓練士科

神戸総合医療専門学校

科目名		授業形態	担当教員名	
キャリア教育Ⅱ		講義・演習	石井 里奈	
時間数（単位数）		授業回数	年次	開講時期
15 時間 （ 1 単位）		8 回	2 年次	後期
授業の目的・概要				
キャリア教育Ⅱでは、キャリア教育Ⅰを受けて、自己PRを完成させ、履歴書を作成する。また、それらを面接で伝えられるよう、実践練習をする。				
授業の到達目標				
就職活動スキルを習得する。 将来の自分のために今何をすべきか理解を深め、就職に向けての課題や目標を明確にする。				
授業計画				
回	内容			
1	面接で活かせるマナーとホスピタリティ			
2	履歴書作成			
3	面接練習①（集団）			
4	面接練習②（集団）			
5	面接練習①（個人）			
6	面接練習②（個人）			
7	先輩インタビュー			
8	社会人基礎力アップ			
成績の評価方法と基準				
種別	割合	評価基準・その他備考		
定期試験				
レポート・課題	30%	毎回の授業で作成するシート記入や宿題の課題の結果をもとに評価する。評価基準は別途示す。		
小テスト				
その他	70%	面接、グループディスカッションなど実践での内容を評価する(40%)。授業への取り組み姿勢、グループワークでの他者理解の姿勢や積極性を評価する(30%)。評価基準は別途示す。		
自由記載				
教科書				
書名		著者・編集者名	出版社名	
「なりたい自分」を目指す シューカツワークBOOK			noa出版	
自由記載	レジュメ・講義資料を配布する。			
参考文献				
書名		著者・編集者名	出版社名	
授業内で必要に応じて紹介する				
自由記載				
備考				
前期の課題や気づきを踏まえ、目標意識を持って取り組むこと。				

科目名		授業形態	担当教員名	
臨床医学Ⅰ		講義	谷口 誠典	
時間数（単位数）		授業回数	年次	開講時期
15 時間 （ 1 単位）		8 回	2 年次	後期
授業の目的・概要				
内科的疾患をはじめとする全身的背景は眼科疾患の発症とその治療に影響を及ぼします。質の高い眼科診療をおこなうためには、多彩な全身的背景をよく理解しておくことが求められます。【臨床医学Ⅰ】では、頻度の高い呼吸器疾患、心疾患、消化器系疾患、肝胆膵疾患について学びます。				
授業の到達目標				
①頻度の高い内科的、全身的疾患が説明できる。 ②眼病変を伴う全身的疾患が説明できる。				
授業計画				
回	内容			
1	呼吸器系疾患①（呼吸不全、気管支喘息）			
2	呼吸器系疾患②（気胸、肺がん、肺結核）			
3	心疾患①（心不全、虚血性心疾患、不整脈）			
4	心疾患②（大動脈瘤、大動脈解離、ショック）			
5	消化器系疾患①（上部消化管疾患、胃がん）			
6	消化器系疾患②（下部消化管疾患、潰瘍性大腸炎、クローン病、大腸がん）			
7	肝胆膵疾患（肝硬変、急性膵炎）			
8	まとめ			
成績の評価方法と基準				
種別	割合	評価基準・その他備考		
定期試験	100%	定期試験で評価します。		
レポート・課題				
小テスト				
その他				
自由記載				
教科書				
書名		著者・編集者名		出版社名
つなげて理解！病気がわかる解剖・病態 イラスト図鑑		Nursing Canvas編集室		Gakken
自由記載	講義内容に沿ったプリント資料を配布します。			
参考文献				
書名		著者・編集者名		出版社名
視能学 第3版		小林義治 他編		文光堂
自由記載				
備考				

科目名		授業形態	担当教員名	
臨床医学Ⅱ		講義・演習	谷口 誠典	
時間数（単位数）		授業回数	年次	開講時期
15 時間 （ 1 単位）		8 回	2 年次	後期
授業の目的・概要				
内科的疾患をはじめとする全身的背景は眼科疾患の発症とその治療に影響を及ぼします。質の高い眼科診療をおこなうためには、多彩な全身的背景をよく理解しておくことが求められます。【臨床医学Ⅱ】では、頻度の高い内分泌疾患、血液・造血器疾患、自己免疫疾患、中枢神経疾患、腎・泌尿器疾患について学びます。				
授業の到達目標				
①頻度の高い内科的、全身的疾患が説明できる。 ②眼病変を伴う全身的疾患が説明できる。				
授業計画				
回	内容			
1	内分泌疾患①（バセドウ病、橋本病）			
2	内分泌疾患②（下垂体腫瘍、脂質異常症）			
3	血液・造血器疾患（白血病）			
4	自己免疫疾患①（免疫とは）			
5	自己免疫疾患②（全身性エリテマトーデス、関節リウマチ）			
6	中枢神経系疾患			
7	腎・泌尿器疾患			
8	まとめ			
成績の評価方法と基準				
種別	割合	評価基準・その他備考		
定期試験	100%			
レポート・課題				
小テスト				
その他				
自由記載				
教科書				
書名		著者・編集者名	出版社名	
つなげて理解！病気がわかる解剖・病態 イラスト図鑑		Nursing Canvas編集室	Gakken	
自由記載				
参考文献				
書名		著者・編集者名	出版社名	
なし				
自由記載				
備考				

科目名		授業形態	担当教員名	
精神衛生学		講義・演習	木川 恵理	
時間数（単位数）		授業回数	年次	開講時期
30 時間 （ 2 単位）		15 回	2 年次	後期
授業の目的・概要				
精神衛生の基礎として、様々な精神疾患への理解を深めることを目的とする。				
授業の到達目標				
精神疾患に関するメンタルヘルスの知識を深め、必要に応じてセルフケアが行えるよう演習を通して学ぶ。				
授業計画				
回	内容			
1	ガイダンス 精神衛生とストレスマネジメント（ストレス関連疾患）			
2	うつ病と双極性障害（内因性精神疾患）			
3	統合失調症（内因性精神疾患）			
4	対人関係とコミュニケーション			
5	子どもの発達障害			
6	大人の発達障害・高次脳機能障害			
7	認知症（器質性精神疾患）			
8	子どもの不安障害			
9	大人の不安障害			
10	解離性障害・身体症状症			
11	トラウマ・PTSD			
12	愛着障害・パーソナリティ障害			
13	強迫性障害・依存症			
14	摂食障害			
15	まとめ			
成績の評価方法と基準				
種別	割合	評価基準・その他備考		
定期試験	100%	精神衛生の授業で扱った概要の理解度を評価基準とする。		
レポート・課題				
小テスト				
その他				
自由記載				
教科書				
書名	著者・編集者名		出版社名	
なし				
自由記載				
参考文献				
書名	著者・編集者名		出版社名	
なし				
自由記載				
備考				

令和8年度シラバス

視能訓練士科

神戸総合医療専門学校

科目名		授業形態	担当教員名	
医療安全管理論		講義	荒木 渚	
時間数（単位数）		授業回数	年次	開講時期
15 時間 （ 1 単位）		8 回	2 年次	後期
授業の目的・概要				
医療安全の基本的な考え方と行動を説明し、視能訓練士（医療従事者）として実践に活かせる医療安全対策、安全管理と救急対応・処置について理解することを目的とする。				
授業の到達目標				
①医療安全の基本的な考え方と行動について述べることができる。 ②危険予知について考察を述べることができる。 ③医療安全管理について関心をもち、日常から取り組む姿勢をもつことができる。				
授業計画				
回	内容			
1	ガイダンス・安全管理の基本的理解			
2	安全管理関係者の役割・リスクマネジメント・医療におけるリスクマネジメント			
3	院内感染対策			
4	救急対応と処置			
5	眼科検査時における危険予知トレーニング			
6	患者接遇・待合室における危険予知トレーニング			
7	眼科における院内感染・衛生面の危険予知トレーニング			
8	まとめ			
成績の評価方法と基準				
種別	割合	評価基準・その他備考		
定期試験	70%			
レポート・課題	20%	課題に対して適切にレポートを作成できているかを評価する。評価基準は別途示す。		
小テスト				
その他	10%	演習に対して積極的な取り組みを評価する。評価基準は別途示す。		
自由記載				
教科書				
書名		著者・編集者名	出版社名	
視能学 第3版		小林義治 他編	文光堂	
自由記載				
参考文献				
書名		著者・編集者名	出版社名	
なし				
自由記載				
備考				

科目名		授業形態	担当教員名	
専門職連携論		講義・演習	山寄 統子・岩井 克磨・郡司嶋 一輝・坂東 恵美子・嘉納 綾・藤澤 仁美	
時間数（単位数）		授業回数	年次	開講時期
15 時間 （ 1 単位）		8 回	2 年次	後期
授業の目的・概要				
良質な医療を実践するためには、多種類の医療専門職の協働（チーム医療）が不可欠である。本科目では専門職種を理解し、チーム医療の構成員として自身の専門性を活かし、積極的に医療に参画し、より安全で質の高い医療を実践できるように医療の流れ、医療チーム構成員とその職能・役割など、チーム医療に関する基本的知識を習得することを目的とする。				
授業の到達目標				
①医療の流れ、医療チーム構成員とその職能・役割を述べることができる。 ②1つの症例に対して各職種から見た視点を理解し、チーム医療における視能訓練士の視点を提案することができる。				
授業計画				
回	内容			
1	チーム医療とは、視能訓練士に必要な基礎知識			
2	視能訓練士の専門性			
3	チーム医療と視能訓練士の役割			
4	診療放射線技師の仕事と同一症例の関り			
5	臨床工学技士の仕事と同一症例の関り			
6	理学療法士の仕事と同一症例の関り			
7	作業療法士の仕事と同一症例の関り			
8	歯科衛生士の仕事と同一症例の関り			
成績の評価方法と基準				
種別	割合	評価基準・その他備考		
定期試験				
レポート・課題	100%	評価基準は別途示す。		
小テスト				
その他				
自由記載				
教科書				
書名		著者・編集者名	出版社名	
視能学 第3版		小林義治 他編	文光堂	
病気がみえる vol.12 眼科		医療情報科学研究所 編	メディックメディア	
自由記載				
参考文献				
書名		著者・編集者名	出版社名	
なし				
自由記載				
備考				
授業予定は前後することがある。				

科目名		授業形態	担当教員名	
保健医療と福祉		講義	荻野 綾	
時間数（単位数）		授業回数	年次	開講時期
15 時間 （ 1 単位）		8 回	2 年次	後期
授業の目的・概要				
視能訓練士に関連する関係法規を学ぶことにより、視能訓練士（医療従事者）としての心得、責任、役割を理解し、地域包括システムを中心として、保健・医療・福祉の連携について理解することを目的とします。				
授業の到達目標				
視能訓練士法に関わる視能訓練士の具体的な業務を述べることができる。 医療従事者として必要な関係法規の内容を理解し、述べることができる。 地域包括システムにおける保健・医療・福祉の役割を述べることができる。				
授業計画				
回	内容			
1	ガイダンス・視能訓練士法・視能訓練士の業務			
2	視能訓練士法・その他眼科医療に関する職種と業務内容、関係法規			
3	その他の関係法規①			
4	その他の関係法規②			
5	その他の関係法規③			
6	医療保険制度・診療録と医療記録			
7	保健・医療・福祉の役割と連携			
8	まとめ			
成績の評価方法と基準				
種別	割合	評価基準・その他備考		
定期試験	100%	理解度を評価する。		
レポート・課題				
小テスト				
その他				
自由記載				
教科書				
書名		著者・編集者名	出版社名	
視能学 第3版		小林義治 他編	文光堂	
自由記載				
参考文献				
書名		著者・編集者名	出版社名	
なし				
自由記載				
備考				

科目名		授業形態	担当教員名	
特別支援教育概論		講義	荒木 渚	
時間数（単位数）		授業回数	年次	開講時期
15 時間 （ 1 単位）		8 回	2 年次	後期
授業の目的・概要				
インクルーシブ教育システム下における特別支援教育の基礎的理解を目的とします。視覚障害、聴覚障害、知的障害、肢体不自由、病弱、発達障害を概括的に学び、インクルーシブ教育システムと関連付けて理解します。				
授業の到達目標				
①日本におけるインクルーシブ教育システムについて概要を理解する。 ②視覚障害、聴覚障害、知的障害、肢体不自由、病弱、発達障害の概要を理解する。 ③上記の障害に関する教育の内容・方法、今日的教育課題について概要を理解する。				
授業計画				
回	内容			
1	障害とは 障害児教育の歴史			
2	特別支援教育の理念と制度			
3	特別支援学校の教育について			
4	視覚障害教育と聴覚障害教育			
5	知的障害教育と肢体不自由教育			
6	病弱教育と発達障害教育			
7	特別支援学級と通級による指導			
8	特別支援教育の現状と今後の課題			
成績の評価方法と基準				
種別	割合	評価基準・その他備考		
定期試験				
レポート・課題	80%	評価基準は別途示す。		
小テスト				
その他	20%	授業に取り組む姿勢、積極性を評価する。評価基準は別途示す。		
自由記載				
教科書				
書名		著者・編集者名		出版社名
視能学エキスパート ロービジョンケア		新井千賀子 他編		医学書院
自由記載				
参考文献				
書名		著者・編集者名		出版社名
なし				
自由記載				
備考				

科目名		授業形態	担当教員名	
視能検査学総合演習		演習	山寄 統子・谷口 誠典	
時間数（単位数）		授業回数	年次	開講時期
30 時間 （ 1 単位）		15 回	2 年次	後期
授業の目的・概要				
これまでに学習した各種眼科検査の知識と技能をもとに、視能訓練士として必要な「一連の検査の順序を組み立て、臨床的に矛盾のないデータを導き出す力」を養うことを目的とする。単発的な検査技術の習得にとどまらず、複数の検査結果を総合的に捉え、論理的な思考力・判断力を身につける。また、検査者としての立ち振る舞いや説明力にも重点を置く。				
授業の到達目標				
①視野検査（動的・量的）の基本（準備、説明、測定）を理解し実践できる。 ②異常視野に対する動的視野の測定方法を理解し、実践できる。 ③眼科検査（視力・屈折、眼圧、眼位、視野、両眼視機能など）を適切な手順で正確に実施できる。 ④一連の検査結果を総合的に読み取り、矛盾や異常所見に気づき、自ら考察・説明できる。				
授業計画				
回	内容			
1	動的視野検査 静的視野検査 振り返り			（山寄）
2	緑内障（講義）			（山寄）
3	動的視野症例実技	静的視野【実習①】	/ 検査全般【実習①’】	（山寄/谷口）
4	動的視野症例実技	静的視野【実習②】	/ 検査全般【実習②’】	（山寄/谷口）
5	動的視野症例実技	静的視野【実習③】	/ 検査全般【実習③’】	（山寄/谷口）
6	動的視野症例実技	静的視野【実習④】	/ 検査全般【実習④’】	（山寄/谷口）
7	動的視野症例実技	静的視野【実習①’】	/ 検査全般【実習①】	（山寄/谷口）
8	動的視野症例実技	静的視野【実習②’】	/ 検査全般【実習②】	（山寄/谷口）
9	動的視野症例実技	静的視野【実習③’】	/ 検査全般【実習③】	（山寄/谷口）
10	動的視野症例実技	静的視野【実習④’】	/ 検査全般【実習④】	（山寄/谷口）
11	実技試験に向けて検査全般実習 ① （実技試験の概要説明）			（山寄/谷口）
12	実技試験に向けて検査全般実習 ②			（山寄/谷口）
13	実技試験に向けて検査全般実習 ③ （振り返り）			（山寄/谷口）
14	眼科検査機器の講義（ニデック）			
15	眼科検査機器の実地体験（ニデック）			
成績の評価方法と基準				
種別	割合	評価基準・その他備考		
定期試験				
レポート・課題	20%	課題に対し適切にレポートを作成できているかを評価する。 評価基準は別途示す。		
小テスト				
その他	80%	口頭試問と実技試験で評価する。評価基準は別途示す。		
自由記載				
教科書				
書名		著者・編集者名	出版社名	
視能学 第3版		小林義治 他編	文光堂	
理解を深めよう 視野検査 第1版補訂版		松本長太 監修	金原出版	
視能学エキスパート 視能検査学 第2版		和田直子 他編	医学書院	
眼科検査ガイド 第3版		根木昭 監修	文光堂	
自由記載				
参考文献				
書名		著者・編集者名	出版社名	
なし				
自由記載				
備考				

科目名		授業形態	担当教員名	
眼科画像解析学		講義・演習	谷口 誠典・荻野 綾	
時間数（単位数）		授業回数	年次	開講時期
30 時間 （ 1 単位）		15 回	2 年次	後期
授業の目的・概要				
この授業では、眼科領域で用いられる各種画像検査の臨床的意義を理解することを目標とします。2年生後期というタイミングで視能障害学の知識がある程度備わっていることを前提に、臨床に即した内容を扱います。OCTと光眼軸に関しては実際の機器を用いた操作・解析を行い、その他の検査は症例画像を用いて、読影力と臨床判断能力を養います。				
授業の到達目標				
①OCTを用いて基本的な画質の良い画像を撮影できる。 ②主要な眼疾患の画像の読み取りができる。				
授業計画				
回	内容			
1	蛍光眼底造影検査①（FAG）			
2	蛍光眼底造影検査②（ICG、眼疾患の造影検査結果の読影）			
3	蛍光造影検査の説明と同意、アナフィラキシー様ショック			
4	自発蛍光眼底造影（FAF）、超広角走査レーザー検眼鏡、眼疾患の造影検査結果の読影			
5	OCT（光干渉断層計）原理と基本撮影			
6	OCT（光干渉断層計）撮影パターン			
7	OCT（光干渉断層計）眼疾患のOCT結果の読影、OCT-A、前眼部OCT			
8	眼軸長検査（超音波Aモード、光眼軸）			
9	超音波Bモード検査、眼内レンズ講義			
10	X線撮影、CT、MRI			
11	画像検査演習① OCTの撮影【演習】（谷口、荻野）			
12	画像検査演習② 眼軸長検査【演習】（谷口、荻野）			
13	まとめプリント			
14	NIDECK			
15	NIDECK			
成績の評価方法と基準				
種別	割合	評価基準・その他備考		
定期試験	100%			
レポート・課題				
小テスト				
その他				
自由記載				
教科書				
書名		著者・編集者名	出版社名	
視能学 第3版		小林義治 他編	文光堂	
眼科検査ガイド 第3版		根木昭 監修	文光堂	
自由記載				
参考文献				
書名		著者・編集者名	出版社名	
なし				
自由記載				
備考				

令和8年度シラバス

視能訓練士科

神戸総合医療専門学校

科目名		授業形態	担当教員名	
視能矯正学演習Ⅳ		講義・演習	荒木 渚	
時間数（単位数）		授業回数	年次	開講時期
30 時間（1 単位）		15 回	2 年次	後期
授業の目的・概要				
学童期以降の小児や成人に対する眼鏡合わせの理論を学ぶ。眼鏡合わせは、新人の視能訓練士が苦手意識をもつことの多い検査である。なぜなら患者のこれまでの眼鏡の装用経験の有無や所持眼鏡度数、装用期間、患者の視生活の状況、見え方に対する感覚順応力が患者一人ひとり異なるからである。この講義では理論的な処方度数の決定方法を伝えていく。				
授業の到達目標				
①眼鏡合わせに必要な知識を習得する。 ②眼鏡合わせの際に、まず患者に装用させるレンズの第一選択ができる。				
授業計画				
回	内容			
1	成人の眼鏡合わせ（クラスメイトに対して）【実習】			
2	成人の眼鏡合わせ（近視）（講義）			
3	成人の眼鏡合わせ（近視）【実習】			
4	成人の眼鏡合わせ（遠視）（講義）			
5	成人の眼鏡合わせ（遠視）【実習】			
6	成人の眼鏡合わせ（乱視）（講義）			
7	成人の眼鏡合わせ（乱視）【実習】			
8	成人の眼鏡合わせ（不同視）（講義）			
9	成人の眼鏡合わせ（不同視）【実習】			
10	多焦点眼鏡の眼鏡合わせ（講義）			
11	プリズム眼鏡（講義）			
12	カラーレンズ（講義）			
13	小児の眼鏡について（講義）			
14	累進屈折力眼鏡について（講義）			
15	眼鏡フレームとフィッティング、まとめ（講義）			
成績の評価方法と基準				
種別	割合	評価基準・その他備考		
定期試験	70%	1～12回、15回の授業内容について定期試験で評価します。		
レポート・課題	30%	実習時に配布する課題プリントに対する取り組みを評価する。評価基準は別途示す。		
小テスト				
その他				
自由記載				
教科書				
書名		著者・編集者名	出版社名	
視能学 第3版		小林義治 他編	文光堂	
自由記載				
参考文献				
書名		著者・編集者名	出版社名	
視能学エキスパート 光学・眼鏡 第2版		松本富美子 他編	医学書院	
自由記載				
備考				
授業予定は前後することがある。				

科目名		授業形態	担当教員名	
神経眼科Ⅱ		講義	谷口 誠典	
時間数（単位数）		授業回数	年次	開講時期
30 時間 （ 1 単位）		15 回	2 年次	後期
授業の目的・概要				
核・核下性疾患、核上性疾患、眼振について、複雑な脳神経の走行などを理解しやすくするためにできるだけ多くのイラストを描きながら解説し病態生理を説明します。				
授業の到達目標				
①各单元ごとに配布する練習問題で要点を理解できる。 ②国家試験過去問題を解くことができ、国家試験問題の出題傾向を掴む。				
授業計画				
回	内容			
1	重症筋無力症、慢性進行性外眼筋麻痺			
2	斜視特殊型（Duane症候群、Brown症候群、固定斜視）			
3	斜視特殊型（眼窩底骨折、sagging eye syndrome、general fibrosis syndrome）			
4	眼瞼・顔面表情筋の障害（眼瞼けいれん、マーカスガン症候群）、自律神経、脱神経過敏性の獲得、light-near dissociation			
5	瞳孔疾患（Horner症候群、瞳孔緊張症）			
6	瞳孔疾患（動眼神経麻痺、Argyll Robertson症候群、その他）			
7	眼球運動の種類、PPRF症候群、MLF症候群、One and a half症候群			
8	Parinaud症候群、double elevator palsy			
9	輻輳、開散の障害			
10	眼振、波形分類、生理的眼振			
11	先天眼振と治療（非観血療法）、潜伏眼振			
12	眼振阻止症候群			
13	後天眼振、眼振の記載、非眼振性異常眼球運動、眼振まとめ			
14	総まとめのプリント①（一問一答、国試過去問40～47回）			
15	総まとめのプリント②（国試過去問）			
成績の評価方法と基準				
種別	割合	評価基準・その他備考		
定期試験	100%			
レポート・課題				
小テスト				
その他				
自由記載	分野ごとに小テストを実施するが、評価には含まない。自己理解度を確認するために実施する。			
教科書				
書名		著者・編集者名	出版社名	
視能学 第3版		小林義治 他編	文光堂	
自由記載				
参考文献				
書名		著者・編集者名	出版社名	
なし				
自由記載				
備考				

科目名		授業形態	担当教員名	
視能訓練学各論Ⅰ		講義	山本 雅美	
時間数（単位数）		授業回数	年次	開講時期
30 時間 （ 1 単位）		15 回	2 年次	後期
授業の目的・概要				
斜視の治療は、斜視手術と視能矯正訓練を組み合わせで行います。本講義では、基礎視能矯正学で習得した知識をもとに、斜視の視能矯正訓練および斜視手術の原理を理解することを目的とします。				
授業の到達目標				
①斜視視能矯正訓練の原理・方法を理解し、説明することができる。 ②斜視手術の原理を知り、斜視型に応じて術式の選択ができる。				
授業計画				
回	内容			
1	ガイダンス 視能矯正・訓練の定義 視能矯正訓練の目的と目標 視能矯正・訓練の原則 POSによる視能矯正訓練プログラム			
2	視能矯正・訓練の種類 インフォームドコンセント 適応と予後に影響する因子 期間と中止時期 効果の判定と評価			
3	視能矯正・訓練の実際 単眼固視訓練 抑制除去訓練①			
4	視能矯正・訓練の実際 抑制除去訓練②			
5	視能矯正・訓練の実際 網膜対応異常の矯正訓練			
6	視能矯正・訓練の実際 融像訓練			
7	視能矯正・訓練の実際 輻湊訓練 眼球運動訓練 視能矯正確認テスト			
8	斜視手術の適応と禁忌・時期と目標			
9	斜視手術術式① （弱化学・強化学）			
10	斜視手術術式② （筋移動術）			
11	手術方針・量定			
12	斜視型別の手術1 （内斜視・外斜視・上下斜視）			
13	斜視型別の手術2 （眼筋麻痺）			
14	斜視型別の手術3 （AV型斜視・眼振）			
15	術前術後検査・合併症 斜視手術確認テスト			
成績の評価方法と基準				
種別	割合	評価基準・その他備考		
定期試験	100%	理解度を評価する。		
レポート・課題				
小テスト				
その他				
自由記載	理解度を確認する為に適宜確認テストを行う。			
教科書				
書名		著者・編集者名	出版社名	
視能学エキスパート 視能訓練学 第2版		若山曉美 他編	医学書院	
視能矯正学 改訂第3版		丸尾敏夫 編	金原出版	
視能学 第3版		小林義治 他編	文光堂	
自由記載				
参考文献				
書名		著者・編集者名	出版社名	
なし				
自由記載				
備考				

科目名		授業形態	担当教員名	
視能訓練学各論Ⅱ		講義	山寄 統子	
時間数（単位数）		授業回数	年次	開講時期
30 時間 （ 1 単位）		15 回	2 年次	後期
授業の目的・概要				
視能訓練士は眼科検査のほぼ全般を担当するが、流れ作業の検査では質の高い視能矯正を提供することはできません。本科目では、患者の主訴や病歴から疾患を想起し、患者のニーズに応じた視能検査の立案と実施、評価ができるよう、症例データを基に課題を進めていきます。				
授業の到達目標				
①主訴・初期検査から疾患が想起できる。 ②必要な視能検査の目的と正しい手順を説明できる。 ③症例の病態分析と評価が出来る。 ④病態分析により適切な検査・治療方針を立案できる。				
授業計画				
回	内容			
1	ガイダンス 先天性上斜筋麻痺①		授業開始時期：視能訓練学Ⅱ演習第1回終了後	
2	先天性上斜筋麻痺②			
3	間欠性外斜視①			
4	間欠性外斜視②			
5	屈折性調節性内斜視①			
6	屈折性調節性内斜視②			
7	小児の視能評価①			
8	小児の視能評価②			
9	不同視弱視①			
10	不同視弱視②			
11	外転神経麻痺①			
12	外転神経麻痺②			
13	滑車神経麻痺①			
14	滑車神経麻痺②			
15	まとめ			
成績の評価方法と基準				
種別	割合	評価基準・その他備考		
定期試験	100%			
レポート・課題				
小テスト				
その他				
自由記載				
教科書				
書名		著者・編集者名	出版社名	
視能学 第3版		小林義治 他編	文光堂	
眼科検査ガイド 第3版		根木昭 監修	文光堂	
視能学エキスパート 視能訓練学 第2版		若山曉美 他編	医学書院	
視能矯正学 改訂第3版		丸尾敏夫 編	金原出版	
自由記載				
参考文献				
書名		著者・編集者名	出版社名	
なし				
自由記載				
備考				

科目名		授業形態	担当教員名	
視能訓練学Ⅰ 演習		講義・演習	山本 雅美	
時間数（単位数）		授業回数	年次	開講時期
30 時間 （ 1 単位）		15 回	2 年次	後期
授業の目的・概要				
視能訓練学各論Ⅰで習得した知識を基に、斜視視能矯正訓練および斜視手術の応用として、症例の検査結果・病態評価・斜視型別から必要な訓練法や術式を選択できることを目的とします。				
授業の到達目標				
①斜視治療に必要な検査結果を適切に評価できる。 ②斜視型別に適切な訓練手順を実践することができる。 ②症例の検査結果・病態評価・斜視型別から必要な訓練法や術式を選択することができる。				
授業計画				
回	内容			
1	斜視視能矯正訓練 訓練方法演習（実習室） 授業開始時期：視能訓練学各論Ⅰ第9回終了後			
2	訓練方法演習（実習室）			
3	抑制除去訓練			
4	網膜対応異常訓練 融像訓練			
5	訓練法 訓練の適応			
6	臨床問題			
7	斜視手術 斜視手術の実際 授業開始時期：視能訓練学各論Ⅰ第15回終了後			
8	斜視手術適応と組み合わせ			
9	斜視手術による合併症			
10	AV型・回旋			
11	術式適応・術式			
12	臨床問題			
13	斜視視能矯正 ケーススタディ			
14	斜視視能矯正 ケーススタディ			
15	まとめ 定期試験対策			
成績の評価方法と基準				
種別	割合	評価基準・その他備考		
定期試験	80%	斜視視能矯正の応用理解を評価する。		
レポート・課題	20%	斜視視能矯正の応用理解をもとに適切にレポートを作成しているかを評価する。評価基準は別途示す。		
小テスト				
その他				
自由記載				
教科書				
書名		著者・編集者名	出版社名	
視能学エキスパート 視能訓練学 第2版		若山曉美 他編	医学書院	
視能矯正学 改訂第3版		丸尾敏夫 編	金原出版	
視能学 第3版		小林義治 他編	文光堂	
自由記載				
参考文献				
書名		著者・編集者名	出版社名	
なし				
自由記載				
備考				

科目名		授業形態	担当教員名	
視能訓練学Ⅱ 演習		演習	山寄 統子・荒木 渚・荻野 綾	
時間数（単位数）		授業回数	年次	開講時期
30 時間 （ 1 単位）		15 回	2 年次	後期
授業の目的・概要				
本科目は、視能訓練学各論Ⅱで学んだ内容をもとに、これまでに学んだ視能矯正の知識の振り返り、および視能矯正を実践に活用できるよう演習を行いながら授業を進める。さらに、OSCE（客観的臨床能力試験）は、3年次の臨地実習に不可欠な、知識、技能、態度を統合した臨床能力を評価する。				
授業の到達目標				
①病歴の取り方、聴取すべき項目を理解し問診することができる。 ②患者の協力が得られるよう検査の目的・方法や治療方針についてわかりやすく説明ができる。 ③検査の特徴や注意点を理解し、患者の状況に応じた適切な検査が正しい手順で行える。				
授業計画				
回	内容			
1	ガイダンス、POSによる視能矯正、医療面接について			
2	先天性上斜筋麻痺症例に関する問診と検査の振り返り		（視能訓練学各論Ⅱ第1回終了後）	
3	先天性上斜筋麻痺症例に関する問診と検査の実践		（視能訓練学各論Ⅱ第2回終了後）＜実習室＞	
4	間欠性外斜視症例に関する問診の振り返り		（視能訓練学各論Ⅱ第3回終了後）	
5	間欠性外斜視症例に関する検査の実践		（視能訓練学各論Ⅱ第4回終了後）＜実習室＞	
6	屈折性調節性内斜視症例に関する問診の振り返り		（視能訓練学各論Ⅱ第5回終了後）	
7	屈折性調節性内斜視症例に関する検査の実践		（視能訓練学各論Ⅱ第6回終了後）＜実習室＞	
8	弱視症例に関する問診の振り返り		（視能訓練学各論Ⅱ第9回終了後）	
9	弱視症例に関する検査の実践		（視能訓練学各論Ⅱ第10回終了後）＜実習室＞	
10	外転神経麻痺症例に関する問診の振り返り		（視能訓練学各論Ⅱ第11回終了後）	
11	外転神経麻痺症例に関する検査の実践		（視能訓練学各論Ⅱ第12回終了後）＜実習室＞	
12	滑車神経麻痺症例に関する問診の振り返り		（視能訓練学各論Ⅱ第13回終了後）	
13	滑車神経麻痺症例に関する検査の実践		（視能訓練学各論Ⅱ第14回終了後）＜実習室＞	
14	OSCE（客観的臨床能力試験）対策			
15	OSCE（客観的臨床能力試験）対策			
成績の評価方法と基準				
種別	割合	評価基準・その他備考		
定期試験				
レポート・課題	20%	課題について理解力、考察力、表現力を評価します。評価基準は別途示す。		
小テスト				
その他	80%	OSCE（客観的臨床能力試験）にて評価します。評価基準は別途示す。		
自由記載	再試験については、100%OSCEにて評価する。			
教科書				
書名		著者・編集者名	出版社名	
視能学 第3版		小林義治 他編	文光堂	
眼科検査ガイド 第3版		根木昭 監修	文光堂	
視能学エキスパート 視能訓練学 第2版		若山曉美 他編	医学書院	
視能矯正学 改訂第3版		丸尾敏夫 編	金原出版	
自由記載				
参考文献				
書名		著者・編集者名	出版社名	
なし				
自由記載				
備考				

科目名		授業形態	担当教員名	
臨地実習Ⅱ		実習	山寄 統子・山本 雅美・谷口 誠典・ 荒木 渚	
時間数（単位数）		授業回数	年次	開講時期
45 時間 （ 1 単位）		回	2 年次	後期
授業の目的・概要				
①視覚障がい者へのロービジョンケアの役割を理解するとともに、安全面に配慮した声掛けや適切な誘導を実践する。 ②特別支援学校を見学し、視覚障がい教育の状況を観察し、医療と教育の連携の必要性および視能訓練士の役割を理解する。 ③病院実習では、患者様に対する思いやりある態度を習得し、医療倫理に基づく基本的マナーを実践する。 ④3歳児健康診査見学では、母子保健事業における乳幼児の健診の概要を理解するとともに、健診に従事する視能訓練士の役割を理解する。				
授業の到達目標				
1. 視覚障がい者とのコミュニケーション及び適切な誘導法を実践することができる。 2. 視覚障がい者に対する医療、福祉、教育の連携を理解する。 3. 患者に対し安全面に配慮し、年齢や状況に応じた対応とわかりやすい説明ができる。 4. 母子保健事業における3歳児健康診査の概要と視能訓練士の役割を理解する。				
授業計画				
回	内容			
	視覚障がい者実習ガイダンス 実習事前評価			
	視覚障がい者実習			
	視覚障がい者実習 振り返り			
	病院 眼科実習ガイダンス 実習事前評価			
	病院 眼科実習			
	病院 眼科実習 振り返り			
	3歳児健康診査見学実習 実習事前評価			
	3歳児健康診査見学実習			
	3歳児健康診査見学実習 振り返り			
	特別支援学校見学実習 実習事前評価			
	特別支援学校見学実習			
	特別支援学校見学実習 振り返り			
視覚障がい者実習		14.5時間（3日）		
病院眼科実習		14時間（2日）		
3歳児健康診査見学実習		3時間（1日）		
特別支援学校見学実習		10.5時間（2日）	合計 42時間（休憩時間を除く）	自己学習 3時間 総合計 45時間
成績の評価方法と基準				
種別	割合	評価基準・その他備考		
定期試験				
レポート・課題				
小テスト				
その他	100%	実習評価項目により評価する。（ガイダンスで説明する）		
自由記載				
教科書				
書名	著者・編集者名		出版社名	
なし				
自由記載				
参考文献				
書名	著者・編集者名		出版社名	
なし				
自由記載				
備考				

科目名		授業形態	担当教員名	
総合視能訓練学演習Ⅱ		講義・演習	山寄 統子・宮崎 茂雄	
時間数（単位数）		授業回数	年次	開講時期
30 時間（ 1 単位）		15 回	2 年次	後期
授業の目的・概要				
・3年次に控える臨地実習・国家試験に向け、自身の知識面・技術面の到達度を再確認する。 ・検者・被検者実習を通して検査技術の向上を図る。 ・眼疾病の理解を深め、視能訓練士として必要な臨床能力を養う。				
授業の到達目標				
・正確な手順で検査を行い、結果を総合的に評価することができる。 ・知識・技術面において課題を見出し、目標に向け行動することができる。 ・患者の訴えから鑑別診断、必要な検査を上げることができる。				
授業計画				
回	内容			
1	オリエンテーション			
2	実習①検者（両眼視機能検査、眼球運動検査、視野検査）＜実習室＞			
3	実習②被検者（視力検査、瞳孔間距離測定検査）＜実習室＞			
4	実習の振り返り			
5	科目課題・演習①（視力検査、視野検査）＜実習室＞			
6	科目課題・演習②（両眼視機能検査、眼球運動検査）＜実習室＞			
7	視能障害学演習①（宮崎茂雄）			
8	視能障害学演習②（ 〃 ）			
9	視能障害学演習③（ 〃 ）			
10	視能障害学演習④（ 〃 ）			
11	視能障害学演習⑤（ 〃 ）			
12	視能障害学演習⑥（ 〃 ）			
13	視能障害学演習⑦（ 〃 ）			
14	視能障害学演習⑧（ 〃 ）			
15	2年後期の振り返り			
成績の評価方法と基準				
種別	割合	評価基準・その他備考		
定期試験	70%	提出物により評価する。評価基準は別途示す。		
レポート・課題	30%			
小テスト				
その他				
自由記載				
教科書				
書名		著者・編集者名	出版社名	
視能学 第3版		小林義治 他編	文光堂	
病気がみえる vol.12 眼科		医療情報科学研究所 編	メディックメディア	
自由記載	適宜資料を配布する。			
参考文献				
書名		著者・編集者名	出版社名	
なし				
自由記載				
備考				
日程調整等により内容が前後する場合があります。				